

動物は何かを伝える時にサインや声を出します。「家族」であるペットとは、考えていることを何となくお互いを感じ取ることができているのではないのでしょうか。「この子は家族です」と笑顔で言われるのを多く聞きますが、ペットは「家族」ということを強く感じたのは、2011年3月11日に起きた東日本大震災でした。

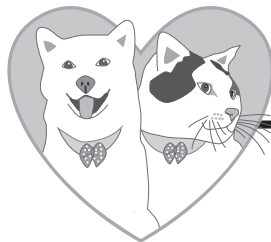
私はボランティアで宮城県にあるドッグ・ウッドという施設に行かせていただきました。そこでは飼い主が亡くなってしまい、どこにも行かずに倒壊した家を守り続ける犬や、どうしても犬を置いていけないと、今にも崩れそうな家で寒さと余震に震えながら何日も過ごした家族がいた、という話を聞きました。

ボランティアで行ったことは、施設で保護している犬たちを順番に連れていく散歩でした。おびえていたり、緊張した様子の犬が多い中、初めて会う人にも慣れた様子で楽しそうに過ごしている犬もいました。しかし、どの犬もどこか寂しそうな顔をしていたのが印象的で、その中でも一番印象に残っているのが中型のmix犬でした。元気があまりなく、歩い

## 愛するペットのために…Vol.387

松波動物病院メディカルセンター

動物看護師 齊藤翼



## 動物医のアドバイスダイアリー

### 【家族への思い】

ていてもどこか上の空な状態で、自分自身の意思をあまり出しません。しかし、住宅や道路がよく見える坂を登っている途中でその子が座り込み、見えている住宅よりさらに遠くを寂しげに見つめ動かなくなりました。

その犬の後ろ姿や表情、目からの憶測ではありますが、景色よりも被災する前の思い出や「家族」を見ていたのかも知れません。私も隣に座り、この子が被災する前はどのような生活だったのか、家族はどんな人なのだろうか、しばらくの間一緒に「家族」について考えました。関わっていたのは短い時間でしたが、mix犬が自分の意思や考えを伝えたのはその時が初めてで、その

一瞬で「家族」のことを思っていることが強く私に伝わりました。それと同時に強く感じたことは、被災したペットたちの人生の一瞬の関わりであったとしても、この一瞬でこの子の思いが私に強く伝わるのなら、一瞬でこちらの思いをこの子たちに伝えることもできるはずだ、ということでした。それをこのmix犬から学びました。

この経験を通して、当院で行っている看護やデイケア、トレーニング、トリミングなど、少しの時間であっても関わる子たちの気持ちや思いを感じ取り、私たちの思いを伝えていき、皆さんの「家族」と過ごす日々が幸せでいられるお手伝いが少しでもできればと思います。